

企画セッション | 総合講演・報告：原子力アゴラ調査専門委員会核燃およびRI等研究施設検討・提言分科会

■ 2022年9月8日(木) 13:00 ~ 14:30 | 会場 A会場 E1棟1F 10番教室

[2A_PL] 大学等核燃・RI研究施設の課題と対応

座長：斉藤 拓巳 (東大)

[2A_PL01] 大学等核燃・RI研究施設の課題と提言

*佐藤 修彰¹ (1. 東北大)

[2A_PL02] 原子力研究施設の現状と人材育成施策

*新井 知彦¹ (1. 文科省)

[2A_PL03] 核燃料施設の施設管理に係る監視活動

*熊谷 直樹¹ (1. 規制庁)

[2A_PL04] 総合討論

*佐藤 修彰¹、新井 知彦²、熊谷 直樹³、細野 行夫³ (1. 東北大、2. 文科省、3. 規制庁)

総合講演・報告 「原子力アゴラ」調査専門委員会
「大学等核燃および RI 研究施設検討・提言分科会」

大学等核燃・RI 施設の課題と対応

Tasks and actions for nuclear fuel and RI facilities at universities and research institutes

*佐藤修彰¹, *熊谷直樹², *新井知彦³

¹東北大学, ²原子力規制庁, ³文部科学省

1. 概要

「原子力アゴラ」調査専門委員会「大学等核燃および RI 研究施設検討・提言分科会」では、学会誌の報告記事「大学等核燃および RI 研究施設の課題と提言」(64, (2022),)において、J 施設から K 施設への転換、学内での拠点化・統廃合について触れるとともに、全国規模の拠点施設の確立、研究ネットワークの構築の必要性を訴えた。例として、東日本では JAEA 東海地区、大洗地区を、西日本では、京大複合原子力研や福井の新研究炉を取り上げ、それぞれにおける照射施設やホットラボ(HL)の利用を提言した。前者では、試験研究炉の運転再開を機に、横断的かつ戦略的な研究開発として一般研究機器等も含めた機構の有する施設・設備・機器の利用促進を図り、オールジャパンでのイノベーション創出に貢献するため、オープンファシリティープラットフォーム(OFPP)を立ち上げている。西日本では、京大での HL の更新と整備や、福井炉における施設概要や詳細設計が進められている。一方、各大学において進めている施設統廃合では、核燃料物質や放射性廃棄物の学内外への移動、保管、廃棄が必要であり、そのため、全国的な保管および廃棄物管理施設の設置が不可欠である。そこで、本セッションでは、最初に本分科会より、核燃・RI 研究施設の現状と課題をまとめ、課題解決のための施設の拠点化について説明する。これらを踏まえ、拠点化を進めるための今後の方策を提言する。上記のような分科会からの報告を受けて、関係する原子力規制庁や文部科学省から、現状認識や提言についての見解やコメントを頂く。最後に、講演者および参加者を含めて本議題に関する意見交換を行い、本セッションを総括する。

具体的には

① 大学等核燃および RI 研究施設の課題と対応

本分科会主査である佐藤より、大学等核燃・RI 研究施設の課題と対応について報告する。

② 核燃料施設の施設管理に係る監視活動

核燃料施設の施設管理に係る監視活動について現況を説明すると共に、「大学等核燃・RI 研究施設の課題と対応について」の報告に対して、原子力規制庁担当者より、コメントする。

③ 文部科学省からのコメント

「大学等核燃・RI 研究施設の課題と対応について」の報告に対して、文部科学省担当者より、コメントする。

これらを踏まえて、講演者をパネラーとしてパネルディスカッションを行い、大学等核燃および RI 研究施設の課題について学会として、なすべきこと、できることは何かを考える場とする。

*Nobuaki Sato¹, *Naoki Kumagai², *Tomohiko Arai³

¹Tohoku Univ., ²NRC, ³MEXT

総合講演・報告 「原子力アゴラ」調査専門委員会
「大学等核燃および RI 研究施設検討・提言分科会」

大学等核燃・RI 施設の課題と対応

Tasks and actions for nuclear fuel and RI facilities at universities and research institutes

*佐藤修彰¹, *熊谷直樹², *新井知彦³

¹東北大学, ²原子力規制庁, ³文部科学省

1. 概要

「原子力アゴラ」調査専門委員会「大学等核燃および RI 研究施設検討・提言分科会」では、学会誌の報告記事「大学等核燃および RI 研究施設の課題と提言」(64, (2022),)において、J 施設から K 施設への転換、学内での拠点化・統廃合について触れるとともに、全国規模の拠点施設の確立、研究ネットワークの構築の必要性を訴えた。例として、東日本では JAEA 東海地区、大洗地区を、西日本では、京大複合原子力研や福井の新研究炉を取り上げ、それぞれにおける照射施設やホットラボ(HL)の利用を提言した。前者では、試験研究炉の運転再開を機に、横断的かつ戦略的な研究開発として一般研究機器等も含めた機構の有する施設・設備・機器の利用促進を図り、オールジャパンでのイノベーション創出に貢献するため、オープンファシリティープラットフォーム(OFPP)を立ち上げている。西日本では、京大での HL の更新と整備や、福井炉における施設概要や詳細設計が進められている。一方、各大学において進めている施設統廃合では、核燃料物質や放射性廃棄物の学内外への移動、保管、廃棄が必要であり、そのため、全国的な保管および廃棄物管理施設の設置が不可欠である。そこで、本セッションでは、最初に本分科会より、核燃・RI 研究施設の現状と課題をまとめ、課題解決のための施設の拠点化について説明する。これらを踏まえ、拠点化を進めるための今後の方策を提言する。上記のような分科会からの報告を受けて、関係する原子力規制庁や文部科学省から、現状認識や提言についての見解やコメントを頂く。最後に、講演者および参加者を含めて本議題に関する意見交換を行い、本セッションを総括する。

具体的には

① 大学等核燃および RI 研究施設の課題と対応

本分科会主査である佐藤より、大学等核燃・RI 研究施設の課題と対応について報告する。

② 核燃料施設の施設管理に係る監視活動

核燃料施設の施設管理に係る監視活動について現況を説明すると共に、「大学等核燃・RI 研究施設の課題と対応について」の報告に対して、原子力規制庁担当者より、コメントする。

③ 文部科学省からのコメント

「大学等核燃・RI 研究施設の課題と対応について」の報告に対して、文部科学省担当者より、コメントする。

これらを踏まえて、講演者をパネラーとしてパネルディスカッションを行い、大学等核燃および RI 研究施設の課題について学会として、なすべきこと、できることは何かを考える場とする。

*Nobuaki Sato¹, *Naoki Kumagai², *Tomohiko Arai³

¹Tohoku Univ., ²NRC, ³MEXT

大学等核燃・RI 施設の課題と対応

Tasks and actions for nuclear fuel and RI facilities at universities and research institutes

*佐藤修彰¹, *熊谷直樹², *新井知彦³

¹東北大学, ²原子力規制庁, ³文部科学省

1. 概要

「原子力アゴラ」調査専門委員会「大学等核燃および RI 研究施設検討・提言分科会」では、学会誌の報告記事「大学等核燃および RI 研究施設の課題と提言」(64, (2022),)において、J 施設から K 施設への転換、学内での拠点化・統廃合について触れるとともに、全国規模の拠点施設の確立、研究ネットワークの構築の必要性を訴えた。例として、東日本では JAEA 東海地区、大洗地区を、西日本では、京大複合原子力研や福井の新研究炉を取り上げ、それぞれにおける照射施設やホットラボ(HL)の利用を提言した。前者では、試験研究炉の運転再開を機に、横断的かつ戦略的な研究開発として一般研究機器等も含めた機構の有する施設・設備・機器の利用促進を図り、オールジャパンでのイノベーション創出に貢献するため、オープンファシリティープラットフォーム(OFPP)を立ち上げている。西日本では、京大での HL の更新と整備や、福井炉における施設概要や詳細設計が進められている。一方、各大学において進めている施設統廃合では、核燃料物質や放射性廃棄物の学内外への移動、保管、廃棄が必要であり、そのため、全国的な保管および廃棄物管理施設の設置が不可欠である。そこで、本セッションでは、最初に本分科会より、核燃・RI 研究施設の現状と課題をまとめ、課題解決のための施設の拠点化について説明する。これらを踏まえ、拠点化を進めるための今後の方策を提言する。上記のような分科会からの報告を受けて、関係する原子力規制庁や文部科学省から、現状認識や提言についての見解やコメントを頂く。最後に、講演者および参加者を含めて本議題に関する意見交換を行い、本セッションを総括する。

具体的には

① 大学等核燃および RI 研究施設の課題と対応

本分科会主査である佐藤より、大学等核燃・RI 研究施設の課題と対応について報告する。

② 核燃料施設の施設管理に係る監視活動

核燃料施設の施設管理に係る監視活動について現況を説明すると共に、「大学等核燃・RI 研究施設の課題と対応について」の報告に対して、原子力規制庁担当者より、コメントする。

③ 文部科学省からのコメント

「大学等核燃・RI 研究施設の課題と対応について」の報告に対して、文部科学省担当者より、コメントする。

これらを踏まえて、講演者をパネラーとしてパネルディスカッションを行い、大学等核燃および RI 研究施設の課題について学会として、なすべきこと、できることは何かを考える場とする。

*Nobuaki Sato¹, *Naoki Kumagai², *Tomohiko Arai³

¹Tohoku Univ., ²NRC, ³MEXT

企画セッション | 総合講演・報告 | 原子力アゴラ調査専門委員会核燃およびRI等研究施設検討・提言分科会

[2A_PL] 大学等核燃・RI研究施設の課題と対応

座長：斉藤 拓巳 (東大)

2022年9月8日(木) 13:00 ~ 14:30 A会場 (E1棟1F 10番教室)

[2A_PL04]総合討論

*佐藤 修彰¹、新井 知彦²、熊谷 直樹³、細野 行夫³ (1. 東北大、2. 文科省、3. 規制庁)

近年、大学等の核燃・RI施設では、施設の老朽化などを背景に、統廃合が検討されている。また、今後、核燃・RIを用いた研究開発を維持・拡大していく上で、施設の拠点化が有効である。本企画セッションでは、「原子力アゴラ」調査専門委員会「大学等核燃およびRI研究施設検討・提言分科会」の活動の一環として、原子力規制庁や文部科学省を交え、核燃・RI研究施設の現状と課題をまとめ、課題解決のための施設の拠点化および核燃料物質や廃棄物の全国的な保管・廃棄物管理施設の設置などの方策について議論する。